

加齢に伴う行動減弱の分子神経基盤



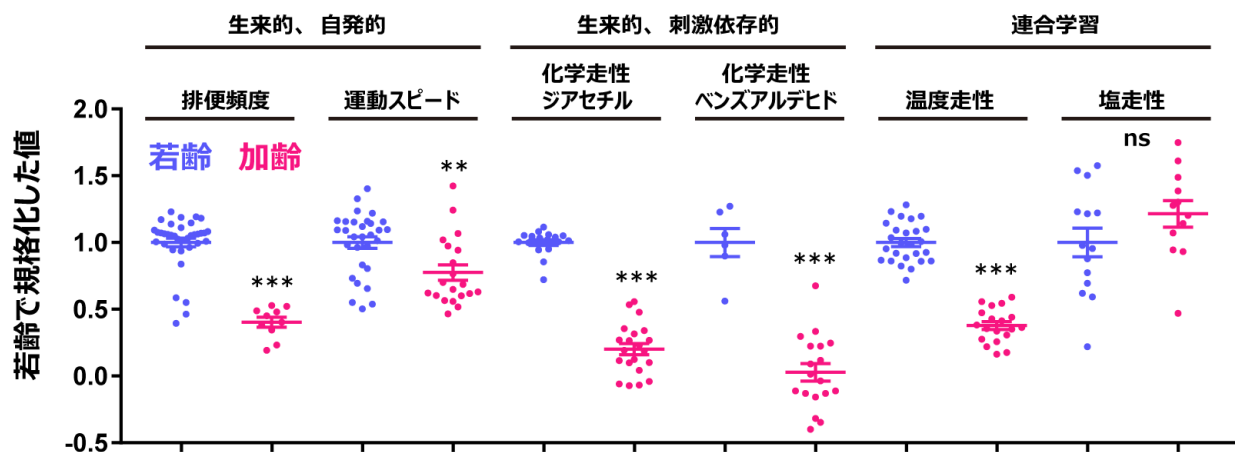
野間 健太郎 准教授

名古屋大学大学院理学研究科

日時：5月26日(金) 15:00-16:30

場所：理学部E館1階 E131

線虫 *C. elegans* は、孵化後3日間で成虫になり、数日の生殖期間を経て、2週間程度で儚い一生を終える。その間、302個の限られた神経細胞を使って餌を得るための様々な行動を示すが、それらの多くは生殖を終えるころに減弱する。我々ヒトでは数十年かけて起こる神経機能の減弱が、線虫においてたった1週間で起こる背景には、老化を司る遺伝的プログラムの存在が疑われる。そこで我々は、加齢による行動の減弱が起こらない変異体の順遺伝学的スクリーニングを行い、核内受容体をコードする遺伝子を単離した。本セミナーでは、神経機能老化の本質に迫りたいと考える我々の奮闘を紹介し、皆さんから忌憚のない意見をいただきたい。



加齢による様々な行動の減弱 若齢（成虫 1 日齢）と加齢（成虫 5 日齢）の各行動のパフォーマンスを若齢の平均値で規格化した。本申請研究ではジアセチルに対する化学走性を用いる。ジアセチルとベンズアルデヒドはそれぞれ別の感覚神経細胞で受容される。

問い合わせ先 日比正彦 (hibi.masahiko.s7@f.mail.nagoya-u.ac.jp)